

(別紙様式)

# 平成31年度学校自己評価システムシート (県立熊谷西高等学校)

目指す学校像	生徒の力を最大限に伸ばす県北が誇る進学校
--------	----------------------

重点目標	1 知性・勇気・品格を備えた西高生を育成する 2 高い志と学力を育み、第一志望進路を実現できる西高生を育成する 3 家庭や地域に積極的に働きかけ、開かれた西高づくりを推進する 4 SSH指定校として、西高生の科学的資質向上に全校で取り組む
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	現状 一段階上の目標に挑戦する勇気を持つ生徒が増えてきた。制服改定に向けて動き出した。アンケートによると、非常時の備えが心配な家庭が多く見受けられる。 課題 ○爽やかな挨拶の励行 ○ネット利用マナーアップやスマホの適切な使用、交通安全指導の充実 ○ボランティア活動等の計画と推進 ○部活動等を通じた人間形成 ○救急法講習会や防災意識向上の取組	⑦挨拶、マナー、ルール順守の指導を徹底する。 ⑧生徒の主体的な活動を通じて、品格や勇気を育てる ⑨健康増進を図り、非常時への備えを推進する。	①不十分な振舞はその場でやり直させる。 ②制服着用等ルール違反を見逃さない。 ③交通安全指導、登校指導を行う。 ①ボランティアは県の事業終了に伴い、学校独自に予算を確保し計画・実施する。 ②生徒会を中心に、学校全体のボランティア意識を高め合うよう取り組む。 ③部活動等で、挑戦する勇気を育て、達成感や自信を持たせる指導に取り組む。 ①「保健だより」等健康啓発情報の充実 ②救急法講習会参加を複数回呼び掛ける。 ③生徒手帳掲載の災害時対応マニュアルについて保護者に周知し対応を促す。	①やり直し指導が徹底できたか。 ②ルール順守が一層進んだか(アンケート)。 ③効果的に実施できたか。 ①昨年と同様かそれ以上の取組ができたか。 ②生徒会広報等により、活動と呼び掛けたり報告したりできたか。 ③複数の部で県レベルの大会・展覧会等の入賞以上。 ①情報発信の充実が図れたか。 ②救急法講習会参加者が増加したか。 ③災害時の対応について、決まりを作っている家庭が過半数になったか。			
2	現状 新入試への対応、新教育課程の編成が進行中。総合的な探究の時間委員会と授業改善委員会を設立した。一部生徒は苦手科目を早めに諦め、志望校の幅を狭めてしまう。学習支援として学習動画視聴を導入した。校務支援システムによるeポートフォリオを導入予定。図書貸出数が減少し、生徒の読書の質や量の低下が懸念される。 課題 ○「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善 ○総合的な探究の時間委員会や授業改善委員会の活用 ○新入試への万全の対応 ○生徒の読書の質や量の確保	⑦高大接続改革の観点を踏まえた授業改善を推進する。 ⑧補習や個別指導等により、国公立大学を始め、第一志望校合格を実現する。 ⑨生徒の読書の質を向上させ、また読書量を増加させる。	①西高の探究活動の充実を図る。 ②教員研修や授業評価、AL(アクティブ・ラーニング)活動の充実を図る。 ③朝学習、進路学習室、学習動画等の活用を指導し、自主学習を推進する。 ①休業中及び平日補習、個別指導の充実 入試対策の充実を図る。 ②4回以上の面談により、個別の進路指導の充実を図る。第一志望維持、国公立大学受験を励行する。 ③eポートフォリオを円滑に導入する。 ①授業等教育活動に図書館の資料を積極的に活用する。 ②広報を工夫し、図書館や本についてより魅力的に伝える取組を行う。	①特色ある探究活動を展開できたか。 ②授業改善が進み「主体的・対話的で深い学び」が実践できたか(アンケート)。 ③朝学習、自習室活用者及び家庭学習時間が増加したか(アンケート)。 ①補習の講座数、受講者数等が増加したか。センター試験の得点または入試結果の向上につながったか。 ②丁寧かつ効果的な個別面談指導が実施できたか。 ③混乱やトラブルを最小限に抑えて導入することができたか。 ①図書館の活用時間や利用者数が増加したか。 ②広報の取組が工夫、推進できたか。			
3	現状 PTAの事業見直しと組織改編を実施した。ホームページを中心に学校の魅力の発信に努めている。入試において普通科一般募集志願倍率が1.04倍と低かった。 課題 ○学校教育活動へのPTAの参加 ○進学希望生徒が多い大学等との連携及びPTA大学見学会の充実 ○学校ホームページの改善 ○西高の魅力を伝える生徒募集の充実 ○体験授業の改善と充実	⑦大学、企業、PTAとの連携を強化する。 ⑧ホームページや「スマート連絡帳」を充実させる。 ⑨生徒募集を一層充実させる。	①既存の連携を強化する。 ②新しい連携の構築を図る。 ③進学希望者の多い国公立大を保護者が見学する機会を確保する。 ①ホームページの情報を更新、整理し、より魅力的で見やすく改善する。 ②「連絡帳」の他の機能も活用する。 ①学校説明会等の充実、中学校・塾訪問の実施と上級学校訪問の受入れを行う。 ②普通科・理数科体験授業は、進学校として5教科を核として多様な講座を展開する。	①参加生徒数が増えたか。 ②新しい連携ができたか。 ③PTA大学見学会が充実でき、参加者数が増加したか。 ①ホームページが改善できたか。 ②「連絡帳」に学校の情報を掲載するなど活用が図れたか。 ①学校説明会等参加者数が増加し、また訪問説明会等原則すべての要請を受け入れたか。 ②昨年並みかそれ以上の講座展開、参加者数が確保できたか。			
4	現状 昨年度の課題研究発表会は生徒研究発表会と変え、探究活動の成果発表等様々な生徒の活動を披露できた。今年度から5年間、SSH指定を受けることができた。 課題 ○普通科文系も含め、生徒の科学的思考力・判断力・表現力の育成を図る学校全体での取組 ○全職員共通認識に基づく探究活動等教育活動の展開 ○大学や企業、他校等校外資源の活用	○SSH指定1年目として満足できる取組を行う。	①SSH推進委員会を核とした、全校での体制を構築する。全職員が事業と取組について知識を持ち、共通理解のもと、取組を推進する。 ②熊西SSHの基底理念である「KN-Line(熊西『学び』の双方向ライン)」を、探究活動を始めとする、全教育活動に普及させる。 ③「SL-Net(サイエンス・ラーニング・ネットワーク)」を構築し、広く地域に展開する。 ④積極的に魅力的な広報により、SSHの取組を周知し、生徒募集に資する。	①SSH職員研修会を実施でき、全校体制の素地ができたか。 ②「AL5Five」「L05Five」が普及し、授業改善につながったか(アンケート)。 ③「SL-Net」の構築が進み、地域とのつながりができたか。 ④SSHの取組をホームページ等で魅力的に広報でき、充実が図れたか。			

学校関係者評価	実施日 平成32年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	